

今シーズンの  
発熱時の病院受診  
の方法



○発熱したらまずはかかりつけ医に電話！

風邪やインフルエンザと見分けがつきにくいとされている  
新型コロナウイルス感染症。発熱してもあわてずに、まずは  
か「かかりつけ医」に電話を。（＊かかりつけ医が診察・検査  
に対応ができなかった場合は、紹介された他の医療機関での  
受診・検査となる。）

もし、相談先がわからない時や、夜間・休日の場合は、「受診・  
相談センター」に相談しましょう。

☎ 019-651-3175

（24時間／土日祝も受付）

・夜間における子どもさんの病気への対応や応急処置の相  
談は・・・子ども救急相談電話

☎ 019-605-9000

または、☎ #8000

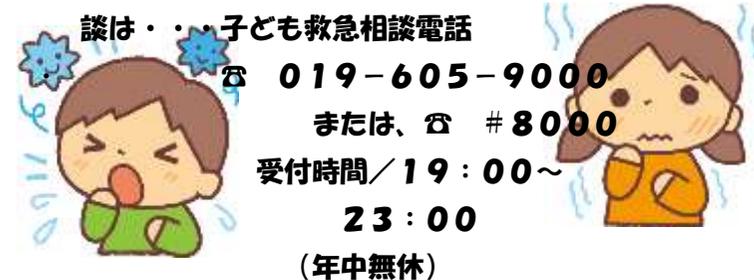
受付時間／19:00～

23:00

（年中無休）



雪がない冬かと窓の外を見ていましたが、あっという間  
に銀世界になってしまいました。新型コロナウイルス感染  
症の猛威が続いています。人ごみを避け、マスクをできる  
限り着用し、引き続き手洗い・うがいを行いながら過ごし  
ましょう。また早寝、早起きを心がけ、規則正しい生活リ  
ズムを崩さないよう気を配りましょう。気温が上がらない  
日が続きますが、十分な加湿とお部屋の空気の入替えは  
こまめに行いましょう。



**1月の乳幼児健康診査**

8日（金）	乳幼児健康診査
15日（金）	ことばの相談
19日（火）	3歳児歯科健診
27日（水）	赤ちゃん相談
29日（金）	1歳6ヶ月児健診

詳しくは広報しずくいしで確認のうえ  
お出かけください。

**かぜの予防をしっかりと**

かぜのウイルスは冬の寒さと乾燥が大好き。  
そろそろ流行が気になります。日ごろから予  
防を心がけて、元気に冬を過ごしましょう！

**かぜ予防6か条**

- 1 うがい、手洗い
- 2 汗をかいたらすぐ着替え
- 3 バランスのよい食事
- 4 部屋の換気と加湿
- 5 規則正しい生活リズム
- 6 人込みを避ける

**気をつけよう！冬の感染症**

- ・ **RSウイルス感染症**
    - <原因> RS ウイルスの感染によって起こる集団流行しや  
すい感染症。特に1歳未満の乳児がかかりやすく、気管支炎  
や肺炎を起こす。
    - <症状> 鼻水、咳などの症状で始まり、呼吸時にヒューヒ  
ュー、ゼーゼーといった音が出る。重症化すると危険な状態  
になることも。
    - <対応> 早めに受診し、こじらせないようにすることが第  
一。
  - ・ **クルーズ症候群**
    - <原因> パラインフルエンザウイルスなどに感染し、咽頭  
に炎症を起こすことで発症。
    - <症状> 発熱やのどの痛みから始まり、犬がほえるような  
甲高い咳が出る。呼吸が荒くなり、ぜん鳴を伴う。喘息と違  
って、息を吸うときにヒューヒューという音がするのが特  
徴。
    - <対応> 吸入器で炎症剤などを吸入して治療する。悪化す  
ると入院が必要になることも。家庭では水分を十分与え、加  
湿器などで室内の乾燥を防ぐ。
  - ・ **感染性胃腸炎**
    - <原因> ウイルス性の感染によるもの。冬はノロウイル  
ス、ロタウイルスが代表的。主に経口、飛まつ感染だが、ノ  
ロウイルスの場合は、食品から感染することも。生後半年か  
ら2歳くらいの子が多くかかる。
    - <症状> 激しいおう吐の症状が突然現れ、下痢がそれに続  
き、発熱もある。ロタウイルスに感染の場合は、便が白っぽ  
くなることも。
    - <対応> 激しい下痢が続くので、イオン飲料や湯冷ましな  
どで水分補給をし、脱水症状にならないようにする。症状は  
2～3日から1週間程度で治まる。
- \* 体調でいつもと違うなと感じたら早めに主治医の先生に相  
談しましょう。